

# 釧路石炭火力発電で、緊急停止と異常音

7月12日、興津の釧路石炭火力発電所でボイラーが緊急停止、たまった蒸気を放出するために大気放散弁が開放され、大きな異常音が発生しました。実は機械の緊急停止は前日にも起きていました。そこで、共産党議員団は19日、発電所側から今回の原因などを聞き取り調査しました。



## 原因は計測器の誤作動

ボイラーには空気が適正に送られているかチェックする「空気の流量測定器」がついています。この測定する管に灰・砂などがたまり、正確に測れず「空気が少ない」と誤信号を出したために機械が緊急停止したものと説明されました。また、再発防止策として、1日3回、ブロワを当ててたまった灰などを取り除くように改善したとのこと

です。操作ミスや重大な損傷が発生してい

なかったことは確認できませんでした。



## なぜ異常音が続く？

「高山のごみ焼却炉も、日本製紙の発電所でも異常音はない。緊急停止しても異常音が発生することがないようできるのではないか」と追及しましたが、発電書の違いをあれこれ説明されましたが、要は根本的な対策は打たれてい

ないようです。これでは緊急停止のたびに大きな異常音が近所に響くことになりかねません。

## なぜダクトが詰まる？

「計測器の管(ダクト)が詰まるのはこの発電所にもあるような一般的なことか」と聞くと、「普通にあること」と答えました。「であればあらかじめ対策しておくべきものではないのか」と聞いても、「稼働半年で詰まった」など、想定内とばかりは言いきれない点もあるようです。「石炭の質と今回のことと関連があるか」と聞いても、「今のところ問題なく対応している」と言うだけ

で、明確な説明はありませんでした。

## 住民対応には反省も

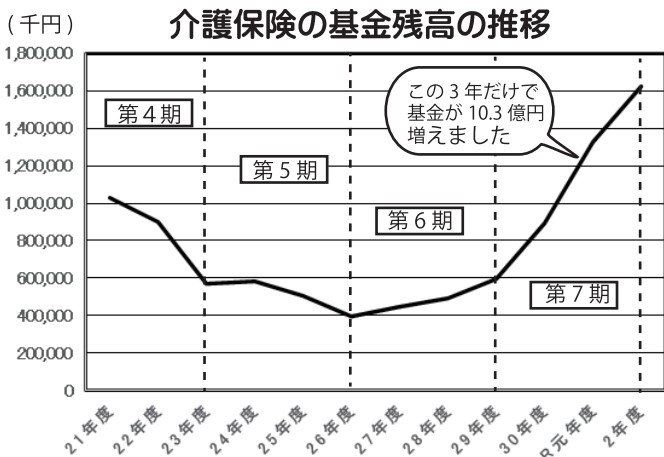
前日の緊急停止後の対応を問い質すと、「1回目と2回目の原因は全く別。最初の原因はすぐ特定できたので再稼働した。」ただし、再停止の可能性もあったことから、あらかじめ住民に知らせるべきだった」と反省しているとのことでした。



## ふくらみ続ける介護保険の基金

介護保険や国保にも、黒字をためたり、赤字になったら取り崩して補填するための基金があります。介護保険は、3年間をひと区切りに事業を行っていますから、3年で収支が合うよう予算を組んでいます。

しかし、最近、介護保険の黒字が続き、基金が大幅に増える異常事態が続いています。令和2年度の基金の残高は16億円を超えました。



その原因は二つです。

- ① 介護現場が深刻な人手不足となっていて、提供すべき介護サービスの量が減っている。
- ② 保険料や利用料の値上げで、利用者がサービスの抑制をせざるを得ない。

このことにメスが入られなければ、介護保険は本来の目的を果たすことはできません。介護保険の原点に立ち返って、介護職員の待遇の大幅改善と介護保険の負担軽減を、積極的に提案していきます。

